

平成26年度各種調査結果を活用した学力向上の取組事例

事務所名	盛岡教育事務所	学校名	盛岡市仙北小学校	TEL	(019) 636-0728
------	---------	-----	----------	-----	----------------

授業改善を中心とした学力向上への取組

- 1 ねらい

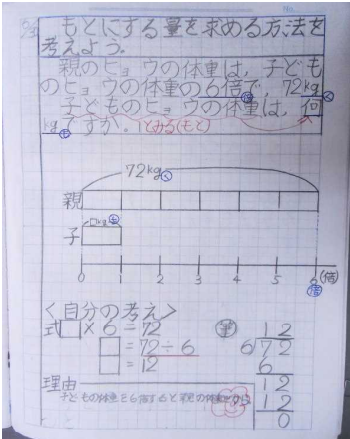
各種調査結果から明らかになった課題の克服のために、日々の授業の改善を中心とした取組を通して、学力の向上を図る。
- 2 具体的な取組
 - (1) 授業改善
 - ①思考力・判断力・表現力の伸長を図るため「活用」を意識した授業を行う。
 - ②諸調査の結果分析を通して児童の課題について把握し、指導の改善に生かす。
 - ③少人数指導、TT指導による個別の支援。
 - (2) 単元テストの有効活用

→単元の学習終了後、どれだけ学習内容が身に付いているか、テストの書き込みを大切にする。
 - (3) 朝学習・家庭学習を通して補充指導。個別指導。

→100マス計算、計算プリント、学年体制での放課後の指導

- 3 実践例
 - (1) 授業改善
 - ①思考力・判断力・表現力の伸長を図るため「活用」を意識した授業を行う。

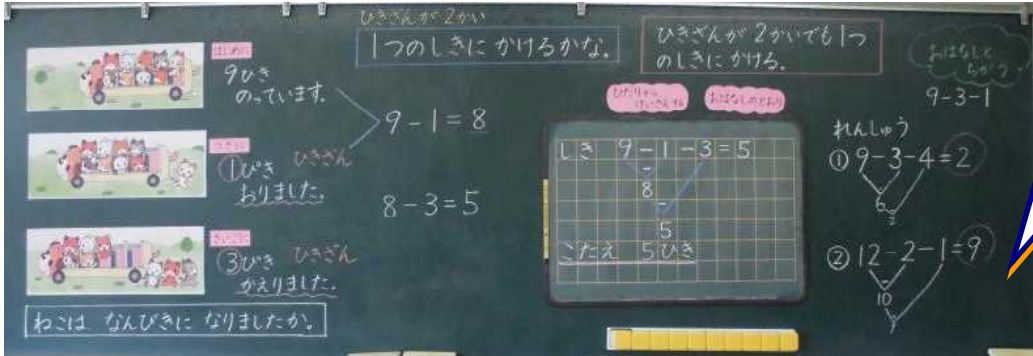
ア 問題文の分析…子どもが主体的に問題文にはたらきかけ、問題の構造を把握する活動を行う。



【問題提示】
 T：問題を分析しましょう。
 C：①「もとにする量」「倍」「くらべられる量」など問題文に書き込む。
 (加減場面なら「全体」「部分」「部分」、
 乗除場面なら「1つ分」「いくつ分」「全体」など問題場面に応じて。)
 ②図をかく。
 (テープ図、数直線図、線分図など学年や単元に応じて。)
 ③式に表す。
 ④立式の根拠を言葉で書く。

段階を追って、分析の仕方は指導していく。
 問題文の分析は既習との関連付けであり、既習の活用につながる。

イ 数学的な表現の関連付け…学び合いの中で数学的な表現を関連付ける。



絵

言葉 **式**

操作

上記のように、絵、お話、ブロック操作、式を関連付けながら説明する活動を通して、式の意味理解を深める。各学年又は各単元において表現方法は変わってくるが、様々な表現を関連付けることで場面をイメージさせ、意味理解を確かなものにする。

② 諸調査の結果分析を通して児童の課題について把握し、指導の改善に生かす。

ウ 指導書に問題のコピー添付（諸調査で県平均を下回った小問と、正答率が70%を下回った小問）



諸調査の結果分析をすることで、指導が難しい、指導の工夫が特に必要な問題を把握する。
 左の例は3年生の道のりの問題である。教科書では道のりの「ちがいを求める問題は取り上げられていないが、調査問題では出されている。そこで、授業の中の適用問題として、道のりのちがいを求める問題を提示するなどの工夫を行った。

③ 少人数指導、TT指導による個別の支援

エ 板書による児童の考えの位置付け、関連付け

児童の気づきや迷いは吹き出して板書に位置付ける。



児童の考えや気づきを吹き出しとして位置付ける。TT指導においては、T2（主に副担任）が児童の発言を板書に位置付けながら、T1（主に学級担任）が児童相互の学び合いをコーディネートすることで、児童相互の関わり合いを大切にする。その中で分からないことを分からないと言える大切さや友達の発言に反応しながら学習する態度を賞賛しながら学習集団をつくっていく。

オ 振り返りのノート

表に分かっているものが1つしかなくても、1枚分、1個分の重さが同じだったら、yがxに比例していることが分かるから、数を数えなくても求められることがわかりました。そして、Wさんの言ったとおり、1がなくても比例していれば、yが求められることがわかりました。
 （6年 比例と反比例 比例の利用）

表に表すと、正方形の数が1個ずつ増えるごとに、ぼうの数は3個増えることがわかった。増え方のきまりを表す式がたくさんあることがわかった。正方形だけでなく長方形などにも使えるのではないかと思った。
 （5年 きまりを見つけて）

312×3は、さいしょは計算図でやっていたら「300×3、10×3、2×3」か「300×3、12×3」かまよっていたけど、MさんとMさんが言っていたとおり、位ごとに分けると九九が使えるのでいいと分かりました。

(3年 かけ算の筆算(1))

本時の課題とまとめ、友だちから学んだことを授業の振り返りとして書く。

- 授業でまとめた数学的な価値について自分の思考過程に沿ってまとめ直す。
- 自分の迷いが解決された場面にしぼって書きまとめる。
- 友達の考えから学んだことをまとめる。
- 本時の学習から次の学習につながりそうな内容について発展的に考える。

(2) 単元テストの有効活用

①問題文の分析

⑤ 1本235円で、800mL入りのジュースを9本買います。代金はいくらですか。

(式) $235 \times 9 = 2115$

答え (2115円)

式・答え各5点(10)

※うらの問題もやりましょう

これも(800mL入り)1つ分になるけど、代金はいくらですかと聞かれているから、今日は1つ分にはならない。

②学習をいかし、図に表す

⑤ 1こ18円のあめを、4こ買います。代金はいくらですか。式・答え各5点(10)

(式) $18 \times 4 = 72$

答え (72円)

⑥ シールの入ったふくろが3ふくろあります。1ふくろ45まい入ります。シールは全部で何まいありますか。式・答え各5点(10)

(式) $45 \times 3 = 135$

答え (135)

③自分で類題をつくる

① $48 \div 4 = 12$
 $48 \div 4 = 40 \div 4 = 10$
 $8 \div 4 = 20$

② $26 \div 2 = 13$
 $26 \div 2 = 20 \div 2 = 10$
 $6 \div 2 = 3$

③ $93 \div 3 = 31$
 $93 \div 3 = 90 \div 3 = 30$
 $3 \div 3 = 1$

④ $84 \div 2 = 42$
 $84 \div 2 = 80 \div 2 = 40$
 $4 \div 2 = 2$

⑤ $99 \div 9 = 11$
 $99 \div 9 = 90 \div 9 = 10$
 $9 \div 9 = 1$

⑥ $88 \div 8 = 11$
 $88 \div 8 = 80 \div 8 = 10$
 $8 \div 8 = 1$

すば

補助が全部できたら、8で8割ってみましょう。

単元テストは必ず行うものである。そのテストの受け方を工夫し、学習したことを見えるように解答するようにした。例えば

- 問題文を分析し、図を自分で書く。
- 自分なりの間違いポイントを書き込み、注意する。
- 問題の構造に気づき、自分で類題をつくる。

など、単元での学習内容を関連付けていく。間違い直しでは、特に大切にしたい。書き込みの内容から、児童個々の学習状況を具体的に把握する。また、主体的に問題に働きかけたことに花丸をつけることで、関心・意欲・態度面でも評価する。

4 成果

- NRT、全国学調、県学調の結果に具体的な数値で表れていること。
 (NRTでの平均偏差値の伸び、県学調での対県比が全教科105~113の間で安定していること、全国学調では、正答率の全国比はA問題よりB問題のほうが高く、領域間の差が少ない。)
- 学んだことを生かして主体的に学習に取り組む児童の姿が多く見られるようになったこと。
- 「活用」を意識し、系統性を明確にしなが授業を行うことにより、根拠に基づいて考えようとする児童が増えたこと。
- 表現の関連付け、児童相互の思考の関連付けを意識した授業を行うことにより、子どもたち同士のつながろうとする意識が高まったこと。